

鵜の島校区地域計画



平成29年3月
鵜の島校区コミュニティ推進協議会

はじめに



新たなステージの始まり

～ よりよい鵜の島校区に向けて ～

現在、我が国は急激な人口減少と超高齢社会に直面しており、今後も更なる人口の減少や高齢化が見込まれています。人口減少の問題は、国の将来に大きく関わってくる課題ですが、その影響は、地域で生活している私たちの身に大きく圧し掛かることは間違ひありません。

例えば、行政サービスにおいては、医療・介護・年金といった社会保障の面で今以上の負担があるかもしれません。

また、地域づくりにおいては、コミュニティ・自治会等の役員の高齢化や次世代を支える担い手不足などから地域活力の低下などが考えられます。この様な状況の中で、自分達の手で何らかの工夫をし、取り組んでいかなければ地域は疲弊していくばかりです。

本計画は、当校区が今後の社会動向に対応できるよう現在実施している事業に何をプラスすれば、地域でいつまでも元気な生活ができるかということを中心と考えて作成しました。

そのため、すべての事業がスピード感を持って、取り組めるものとなっております。現在の社会情勢は決して予断を許さない厳しい状況ではありますが、地域の皆さんと共により良い地域づくりを進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、この計画策定にあたり、数多くの貴重なご意見、ご提言をいただきました自治会長の皆様を始め、アンケートにご協力いただきました校区の皆様並びに関係各位に心からお礼申し上げます。

平成29年3月17日

鵜の島校区 コミュニティ推進協議会 会長 小西 輝明

目 次

1 鵜の島校区の概要

2 人口と世帯数

3 現状と課題について

(1) 現状

- ① アンケート調査から見る鵜の島校区の現状
- ② 自治会長研修会で出された意見

(2) 課題

4 まちづくりの方向性と具体的な活動

(1) 鵜の島校区のまちづくりの方向性

(2) 具体的な活動

- ① 健康づくり
- ② 災害や困った場合に相談できる環境づくり
- ③ 子どもの健全育成及び校区の人材の育成とその活用
- ④ 地域の活性化
- ⑤ 様々な主体と連携した地域づくり

5 おわりに

1 鵜の島校区の概要

鵜の島校区は、宇部市の中央南端部にあり、南は瀬戸内海に面した港湾、工場群地域、西は藤山校区に接し、東は宇部市の中心部である新川校区、北は小羽山校区に接しており、校区の面積は2.33km²となっています。

その昔、現在のふれあいセンター周辺が入海で、その中央部分に浮かぶ小島がありました。そこは、鵜が羽を休める場所であったことから「鵜の島」と名がついたとの言われがあります。さらに周辺の地名も浜や小松原といった海岸を連想させる地名が多くつけられています。

当校区は、石炭の積出し港のあった新川校区と漁業で栄えていた藤曲地区との往来を結ぶ通過点ということもあって、国道190号線、産業道路、国鉄宇部線（現在のJR宇部線）の発展とともに成長してきました。

また鵜ノ島小学校にはかつて2,300人の児童がいたことなどの記録が残っています。

現在では、校区の人口は減少傾向にありますが、先人が培ってきた伝統文化や歴史などを軸に、さまざまな人々が交流できるような行事等を積極的に実施するなど、共存同榮の精神を大切にしている校区となっています。

2 人口と世帯数

鵜の島校区	世帯	人口	年少		
			14歳以下	15~64歳	65歳
平成18年	2,359	4,828	584	2,973	1,271
平成23年	2,308	4,590	555	2,742	1,293
平成28年	2,230	4,317	485	2,423	1,409



3 現状と課題について

平成28年8月に校区住民にアンケート調査を行うと共に、同年10月16日に自治会長研修会を開催して地域計画策定に向けての意見交換を行い、地域の現状と課題の把握に努めました。

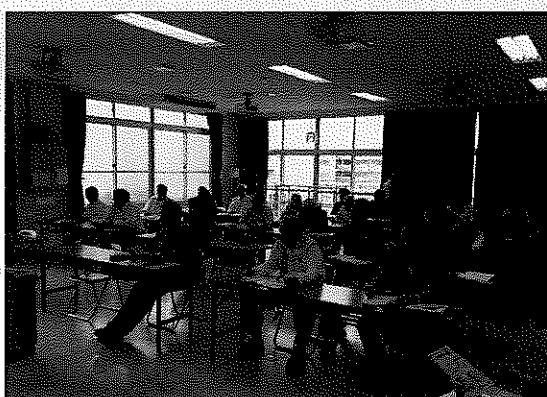
(1) 現 状

① アンケート調査から見る鵜の島校区の現状

- 校区の住みやすさについて「ずっと住み続けたい」と答えた方が85%おられました。また、自治会活動の参加状況を尋ねた質問においては約73%の方が何らかの活動をされているとのことでした。
- 家庭や地域で気になっていることについて尋ねたところ、「健康と老後」について多くの方から気になっているとの回答がありました。
- 地域であつたらよいと思うものについては、災害時に支援してくれる人や団体とすぐに相談できる人や場所があつたら良いとの結果となっています。
- その他の意見としては、「自治会役員の後継者がいない」などが見受けられました。

② 自治会長研修会で出された意見

- 子ども会が弱体化してきているので、自治会内での子どもの把握ができにくい。そのため、自治会行事に子ども達とのふれあいがなくなった。
- 小学生と20歳の集いを行っている。これは鵜の島校区だけだと聞いている。この様な校区独自の魅力ある行事を、どれだけの方が知っているのだろうか。
- 色々な特技を持った人がたくさんいるが、そのような人が埋もれてしまっている。



(自治会長研修会の風景)

(2) 課題

将来予測（年代別人口）やアンケート調査結果、自治会長研修会で出た意見も踏まえて、鵜の島校区では次のような課題があげられました。

- 健康維持の方法がわからない。
- 災害時や困った時にすぐに相談できる人や場所がわからない。
- 単位自治会では、子ども会がないところもあり、地域と子どもがなじめる方法や方策がわからない。
- 校区の人材発掘ができていない。
- 魅力ある事業等が、校区すべてに発信できていない。

4 まちづくりの方向性と具体的な活動

(1) 鵜の島校区のまちづくりの方向性

人口減少と少子高齢化社会が進行していく中で、今後色々な地域課題に直面することが予想されますが、住民が共生同榮の精神で、将来にわたって輝き続ける鵜の島校区にしていきます。

(2) 具体的な活動

当校区において、住民すべてがまちづくりの実現に向けて、校区の団体や企業、住民が協力し合えるよう、課題を整理して、次のような活動に取り組みます。

- ①健康づくり
- ②災害や困った場合に相談できる環境づくり
- ③子どもの健全育成及び校区の人材育成と活用
- ④地域の活性化
- ⑤様々な主体と連携した地域づくり



(三世代交流の集合写真)

① 健康づくり

生涯にわたり、いきいきと活動的な人生を送っていく上で、大切なのは健康です。健康で過ごしていくためには、個人の日々の努力も必要ですが、身近な人と共に参加しあえる環境づくりも必要です。そのため、いつまでも元気な生活を送っていけるような地域を目指し、次のような活動を行います。

(例　示)

事業名	内容	新たな取り組み
鵜の島だより の発行	保健師からの お知らせ	 保健師からのお知らせに対して、読者の感想などインタビューを設けることで内容を充実化する。

毎月、鵜の島だよりに「保健師からの家庭で行える健康法」等のお知らせを掲載しています。これに加えて、読者の体験談などのインタビューのコーナーを設けることで、更に充実したお知らせになるよう工夫します。

(例　示)

事業名	内容	新たな取り組み
男の料理教室	楽しく料理・食事	 食による健康知識の向上を図る

男の料理教室では、会員が楽しく料理をして楽しく食事をしています。今後は、料理を通じて健康知識が高まるような取り組みを行います。



(保健師からのお知らせを実践)



(男の料理教室の風景)

② 災害や困った場合に相談できる環境づくり

防災については、毎年各種事業を行っていますが、参加者が固定化し、多くの方への周知ができていないことが改めて確認できました。よって、事業啓発を強化し、参加者の増加を図ります。

また、アンケート調査において、校区に必要なこととして、困った場合に相談できる人・団体へのニーズが多く見受けられました。民生・児童委員が、既に地域で温かい支援を行っていますが、当校区では、更なる相談体制の強化が求められています。

(例　示)

事業名	内容	参加者	+	新たな取り組み
分団単位訓練	防災訓練	例年同じ参加者		更なる事業啓発を行い参加者の増加を図る

(例　示)

事業名	内容	+	新たな取り組み
見守り活動	民生・児童委員による活動		困った際に相談できる体制づくり



(高齢者の見守りサロン)



(見守り活動のひとコマ)

③ 子どもの健全育成及び校区の人材育成とその活用

自治会長からの意見として、子ども会が弱体化してきたことから、子ども達との交流が自治会内で少なくなってきたとの意見がありました。

また同時に、自治会や校区の役員、後継者不足に苦慮している現状がアンケート調査から浮き彫りになりました。

しかしながら、アンケート調査の他の質問で校区行事のボランティアとしての参加の有無を尋ねたところ、参加したいと答えた方が約28%おられました。

当校区では、三世代交流に力をいれており、あらゆる年代が集まります。今後は、ボランティアの募集等によって校区の事業を展開するなど、校区の人材の発掘を図り、多世代交流や子どもの健全育成を推進します。

(例　示)

事業名	内　容
三世代交流輪飾り作り	親から子へ、そして次世代との交流と伝統文化の継承



新たな取り組み

事業に協力してくれるボランティアを募集

三世代交流の事業は、伝統文化の継承や交流などは子どもの健全育成につながります。更に、この事業に協力してくれる地域のボランティアを募集し、地域の人材育成・後継者等の育成を行います。



(三世代交流の輪飾り)

④ 地域の活性化

アンケート調査でほとんどの人が、当校区に住み続けたいと回答されました。自治会長研修会においても、地域の特色は少ないが「ひと」は良いという意見が多くあげられました。校区住民の「ひとを大切にする心」「やさしさ」を形にして発信することが今後、校区を活性化させる原動力になるのではないかと思うか。「ひとにやさしい鵜の島校区」であることが、若者が「住みたい」と思う地域づくりの一歩にもつながります。

(例 示)

事業名	内 容
子ども行事	夏祭・ウォーキング大会・鵜の島小卒業生だけの成人式など

新たな取り組み
新入学児童の保護者への事業内容の説明



(今後は保護者にも直接アプローチ)

当校区の子ども行事は現在、学校や自治会を通じて案内をしていますが、今後は新入学児童の保護者に直接アプローチをしていくことで、小学校の魅力を身近に感じていただくことができるのではないでしょうか。



(毎年感動をよんでいる鵜ノ島小学校卒業生の成人式)

⑤ 様々な主体と連携した地域づくり

当校区では、魅力ある校区づくりとして、各種事業に取り組んでいます。各種団体と連携を密にするため、毎月1回コミュニティ懇話会（20団体参加）を開催しています。

今後は、校区の関係機関等様々な主体と連携して、地域の魅力を発信し、地域の課題を地域が自ら解決していく地域づくりに取り組みます。

（例　示）

事業名	内容
コミュニティ懇話会	校区だよりの作成・各種事業打ち合わせ等



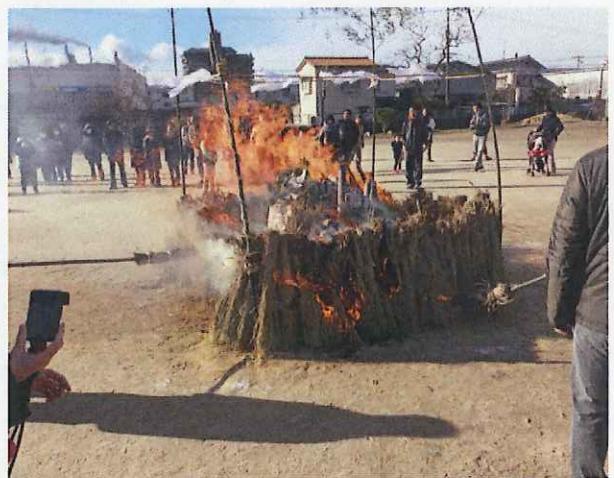
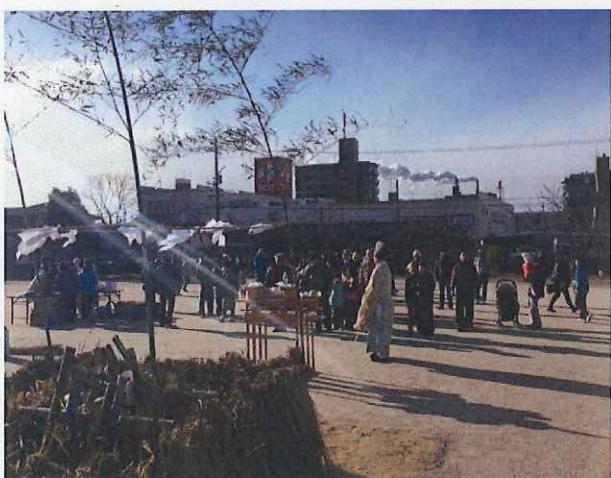
小学校

福祉施設

国の機関

郵便局

新たな取り組み
校区の関係機関等、様々な主体と連携し取り組む



（H29年から始まった校区どんど焼き、新たな校区の魅力発信が期待されている。）

5 おわりに

宇部市の未来、校区の未来

最近、宇部市からのお知らせや宇部日報などの記事において、超高齢社会や人口減少について多くの問題が提起されています。

我々の社会は、ある一定の人口を維持することにより、豊かな生活がおくれているものと感じています。

我々は、この地で生活してきて、微力ではありましたが、校区・宇部市のために手を取り合って活動してきました。

今後も、共存同榮の精神で校区の活性化を図っていく所存であります。最後になりますが、この地域計画が、校区ひいては宇部市の発展に寄与できることを祈念します。

鵜の島コミュニティ推進協議会 会長 小西 輝明